

新たな土地の活用方法として注目の集まる「葬儀場」 FC展開の事業者に聞く、葬儀場展開の背景と戦略

岐阜県内の16カ所に葬儀場を構えるメモリアルホールディングス(岐阜県大垣市)が、全国フランチャイズチェーン(FC)展開に乗り出しました。同社が採用するのはトレーラーハウスを利用した葬儀場で、葬儀規模の縮小ニーズに合わせた家族葬のプランとなっています。同社の松岡泰正会長兼社長に、FC展開での勝算について聞きました。

<トレーラーハウスを利用した葬儀場 家族葬の増加追い風に> —2000年に創業した時の経緯を教えてください。

松岡 創業以前は家業で浄化槽点検事業を行っていました。浄化槽とは下水道がない地域に水洗トイレを設置するときに必要なものなので、下水道が通れば不要です。次第に地元でも下水道が整備されることになり、家族で新規事業を探し目を付けたのが葬儀事業でした。それが1990年ごろの話で、弟が葬儀会社で修業することになりました。10年ほどたった時に、その葬儀会社で叔父の葬式を行ったのですが、800人も人が参列し、俳句や詩吟を手向けてくれる人もいました。叔父が地域の有力者の会社で社長を任され、俳句や詩吟をたしなんでいたことを、その時初めて知ったのです。葬式で叔父の人望の厚さを知り、こういう機会でなければ知れないこともあると思いました。起業するのに勇気が出ずにいたのですが「亡くなった人とご家族中心の温かい葬式をやりたい」と創業を決めました。



※全国賃貸住宅新聞より「トレーラーハウス型の葬儀場」

—トレーラーハウス型の葬儀場を展開することにしたのはなぜですか。

松岡 このモデルは1年ほど前から始めたのですが、新型コロナウイルス下で参列する人が激減したことがきっかけでした。葬儀事業を始めた2000年ごろは、岐阜県でも参列者が120～150人ほど来ることが一般的でしたが、コロナ前には15～20人になり、コロナ禍の影響で平均10人以下まで減少しました。家族葬や密葬という小規模な葬儀を求める人が全国的に増え、今までの葬儀場のサイズでは合わなくなったのです。コンビニエンスストアを改装して葬儀場にすることも試しましたが、やはり葬儀には建物の雰囲気重要で、コンビニの雰囲気が残ると難しいという結論に至りました。そのときに、トレーラーハウスの利用を思い付きました。3棟をコの字形に置けば中庭ができて、小洒落(こじゃれ)た雰囲気をつくることのできるのではないかと。通常の建築物で中庭をつくと膨大なコストがかかり、一度建てると再生不可能ですが、トレーラーハウスなら撤去も比較的簡単にできます。

メモリアルホールディングスのように、急速な勢いで事業所数を増やしている葬儀事業者は、全国各地で増えてきています。土地オーナー様にとって、今までには選択肢になかった「葬儀場による土地活用」という新しい土地の活用の可能性が広がっているでしょう。

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会

〒501-3246 関市緑ヶ丘2-5-78

TEL:0120-337-301 FAX:0575-24-5733

<http://tochikatsuyo.nodakensetsu.co.jp/>

担当: 苅谷

お問い合わせは
コチラまで

